＊潜水中は(A)ボタンを除いたボタン操作やりゅうず操作は絶対行わないでください。
Don't operate any buttons or knobs other than Button (A) underwater.

この取扱説明書は、左側の図を参照しながらお読みください。

When reading this instruction manual please keep the watch diagram at left folded out and in view.

注意 正しく安全にお使いいただくため、ご使用前に必ずこの取扱説明書をよくお読みください。
お読みになった後は、いつでも見れるように必ず保管してください。

安全上のご注意　必ずお守りください。

お使いになる人や他の人の危害、財産への損害を未然に防止するため、必ずお守りいただくことを、次のように説明しています。

■表示内容を無視して誤った使い方をしたときに生じる危害や損害の程度を、次の表示で区分し、説明しています。

⚠ 警告	この表示の欄は、「死亡または重傷などを負う可能性が想定される」内容です
注意	この表示の欄は、「傷害を負う可能性または物的損害のみが発生する可能性が想定される」内容です

■お守りいただく内容の種類を、次の絵表示で区分し、説明しています。（下記は、絵表示の一例です。）

	このような絵表示は、気をつけていただきたい「注意喚起」内容です。
	このような絵表示は、してはいけない「禁止」内容です。

警告

この時計は、レクレーションスポーツの中でも本来危険を伴うダイビングでの使用を意図してつくられています。本書で述べる時計の取り扱いに関してすべての指示を厳守することが絶対に必要です。
まず第一に、この時計のダイビングにおける使用は、成人がレクレーションダイビング(無減圧潜水)を行う場合に限られます。その際の潜水は、1.025の比重をもった水(海水)中で、0℃～40℃の範囲の水温下で行われるものとし、減圧潜水や飽和潜水、高度(標高)の高い水域での潜水は行わないものとします。比重が1.025以外の水では深度が正しく表示できません。
この時計が表示する深度を用い無減圧限界内での潜水を行う場合、資格を持ったインストラクターの下でスキューバダイビングの訓練を受けない限り、無減圧限界の概念を充分に認識することは不可能ですし、この時計を正しく使うこともできません。

あなたがスキューバダイビングの正しい訓練を受け、安全な潜水に必要不可欠な経験と技術を有し、この時計の操作と取り扱いを完全にマスターし、毎回の潜水前にこの時計の機能を点検すること。そうでなければ、この時計を使った潜水を行わないでください。
さらに、大気の急激な変動や水中の環境が時計の性能に及ぼすことがあります。他の計器などを併用することが必要です。
最後に、本書で述べるこの時計の表示は、いずれも目安としてご使用ください。

目次

A. ダイビングへのご使用に当たって

⚠注意　ダイビングへのご使用に当たって

ダイビングは正しくルールにしたがって行えば安全で楽しいスポーツですが、その反面潜水病や不慮の事故の危険が伴います。必ず正しい教育を受け、ダイビングの前には安全を確認してください。
この時計の使用に当たっては、取り扱い方法と注意事項を充分に理解して、正しくご使用ください。
万一この説明書にない取り扱いをした場合には、時計が正しく機能しない場合がありますのでご注意ください。

⚠警告　水深計測機能について

1. この時計の水深計測機能は公的機関の計測機器として認可されたものではありません。補助的な計器としてご使用ください。
2. この時計の水深計測値はあくまで目安としてご使用ください。

⚠注意　安全なダイビングをするために

1. 安全なダイビングに関する特別な教育を受けてからご使用ください。
2. ダイビングの際には必ずバディ・システムをお守りください。
3. 早めの電池交換をおすすめします。この時計の電池寿命は新しい電池を組み込み後約2年です。(水深計測機能などの使用頻度により大きく異なります。電池交換はお早めに)
4. 安全のためのルールにしたがって、ダイビング後は充分な休息をおとりください。
   ダイビング後、間もなく飛行機に搭乗したり、高所に移動すると減圧症を起こす危険があります。

⃠禁止　ダイビングでの使用禁止事項

- 電池寿命予告機能が作動したとき。
  電池寿命が近づくと水深表示から時刻表示に自動的に切り替わり、秒針が2秒間隔で動きます。
- 時計が止まったり異常が生じたとき。
- 保証温度の範囲外での測定。
  この時計の水深計測精度を保証する温度範囲は10℃～40℃です。

・危険を伴う行動や状況の判断に。
この時計は水難などの予防や応急用の機器として造られていません。
・ヘリウムガス雰囲気中(飽和潜水など)での使用はできません。
故障や破損などの原因になります。

⚠注意

・海水に浸した時や多量の汗をかいた後は、真水でよく洗い、よく拭き取ってください。
・りゅうずは常に押し込んだ状態(通常位置)でご使用ください。りゅうずがしっかりねじ締めされていることを確認してください。
・水分のついたままりゅうずやプッシュボタンの操作をしないでください。
時計内部に水分が入り防水不良となる場合があります。
・時計を海水に浸して万一、時計内部に水が入ったり、また、ガラス内面にクモリが発生し長時間消えないときは、そのまま放置せず、お買い上げ店を通してまたは、直接最寄りの弊社お問い合わせ窓口へ修理、点検を依頼してください。

⚠注意　ダイビングにおける注意

【ダイビングの前には】
・りゅうずがきちんと押し込まれ、りゅうずがしっかりネジロックされているか確認してください。
・バンドが時計本体にしっかり固定されているか確認してください。
・バンドやガラスにヒビ、傷、カケなどの異常がないか確認してください。
・回転ベゼルが正常に回転するか確認してください。
・時刻、カレンダーが正しくセットされているか確認してください。
・秒針が正しく動いているか確認してください。
＊秒針が2秒間隔で動いていると電池寿命が間近です。
お買い上げ店を通して、または直接最寄りの弊社お問い合わせ窓口へ電池交換を依頼してください。

【ダイビング中は】
・急速な浮上は避けてください。潜水病などの人体に影響を及ぼします。
安全な浮上速度を守ってください。
尚、“スポーツ・ダイビング”にはさまざまなトラブルを避けるために、毎分9m以内の浮上速度をお守りください。

・水中で操作ができる(A)ボタン以外は、水中でのりゅうずやプッシュボタン操作は絶対しないでください。防水不良などの故障の原因になります。
・ダイビング中は時刻のアラームは鳴りませんのでご注意ください。
・水中では、周囲の状況(気泡音など)・携帯状況などによってダイブアラーム音や浮上速度警告音が聞こえにくいことがありますのでご注意ください。

【ダイビングの後には】
・時計に付着した海水や泥、砂などは、りゅうずがネジロックされていることを確認の上、真水で良く洗い落とし、つぎに乾いた布などで水分を拭き取ってください。
・センサー部につまったゴミ、汚れなどを取り除こうとして、センサーカバーを外したり、先の尖ったものでつついたりしないでください。ゴミなどが入った場合は、真水で洗い流してください。洗い流せない場合は、最寄りの弊社お問い合わせ窓口へご相談ください。

⚠注意　高所・淡水におけるダイビングについて

・海抜4000mを越えるところでは正しい水深計測ができません。
水深計測センターはダイビングモードに切り替えたときの周囲圧を水深0mとして設定しますので、高所の湖においてもダイビングモードへの切り替え時点の標高を0mとして設定します。ただし4000mを越える高所では正しい計測

ができませんので使用しないでください。
・この時計は海水基準(比重1.025)で換算した水深を表示しますので、淡水では表示している水深よりも実際は約2.5%深いことになります。
例) 20m(表示している水深)×1.025：20.5m(実際の水深)
・高所・淡水におけるダイビングは特別の安全教育を受けた後でご使用ください。

防水性維持
・防水性能を保つために2～3年毎にお買い上げ店を通してまたは、直接最寄りの弊社お問い合わせ窓口で診断していただき、必要に応じてパッキン・ガラス・りゅうず等の交換を行ってください。

電池について
この時計の電池寿命は新品電池を組み込み後通常使用で2年間ですが、この寿命は各機能の使用条件により大きく異なりますので早めの電池交換をおすすめします。

⚠注意　この時計の修理について

・この製品は電池交換を含めすべての修理、点検が「メーカー修理」(バンドを除く)となります。お買い上げ店を通して、または直接最寄りの弊社お問い合わせ窓口へご依頼ください。

B．各部の名称と役割

名称		時刻／カレンダーモード	アラームモード	クロノグラフモード
デジタル表示(Ⅰ)		時、分、A／P	時、分、A／P	時、分
デジタル表示(Ⅱ)		日、曜／秒または温度	ON／OFF	秒、1／100秒
(A)ボタン操作案内		▷ CA	SET	STA
(B)ボタン操作案内		▷ SEL	▷ SEL	―
モードマーク表示		TME	ALM	CHR
時針		常に時を表示		
分針		常に分を表示		
秒針		常に秒を表示		
りゅうず		アナログ時刻合わせに使用		
(A)ボタン	1回押すと	秒／日、曜切り替え	ON／OFF切り替え	スタート／ストップ
	2秒以上押し続けると	温度測定	アラームモニター	―
(B)ボタン	1回押すと	―	―	スプリットタイム／リセット
	2秒以上押し続けると	時刻修正表示	アラームセット時刻修正表示	―
(M)ボタン	1回押すと	アラームモードへ	クロノグラフモードへ	ログモードへ
	2秒以上押し続けると	潜水準備表示へ	潜水準備表示へ	潜水準備表示へ

圧力センサー……水圧を感知し、深度を計測するためのセンサー

水感知センサー…水分を感知すると自動的にダイブモード【準備表示】に切り替わります。

＊これら以外にもこの時計には温度センサーが装備されています。

ログモード	ダイブアラームモード
*1	深度アラーム
*2	潜水時間アラーム
CA	—
SEL	SEL
LOG	DAL
MEMO（ログ内容）呼び出し	—
—	ダイブアラームモニター
ログ回数呼び出し	—
—	ダイブアラーム修正表示
ダイブアラームモードへ	時刻／カレンダーモードへ
潜水準備表示へ	潜水準備表示へ

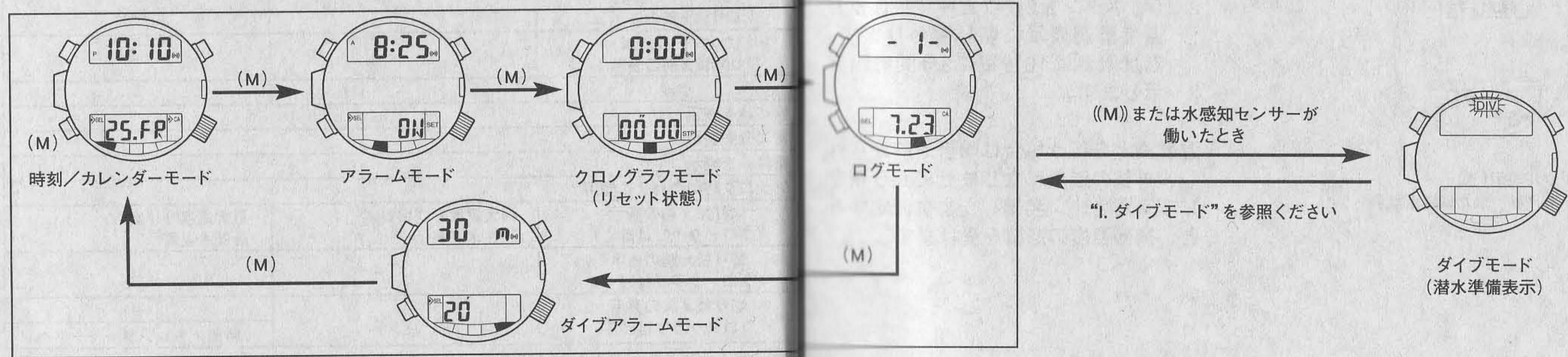
*1 潜水回数／最大深度／潜水開始時刻／平均深度

ダイブモード		
準備表示	水深計測表示	計測後0m表示
（DIVマーク点滅） 切り替え前の表示	（DIVマーク点灯） 現在深度	（DIVマーク点灯） 0.0m点滅
（DIVマーク点滅） 切り替え前の表示	潜水時間	潜水時間
（DIVマーク点滅） 切り替え前の表示	CA	CA
（DIVマーク点滅） 切り替え前の表示	—	—
点滅	—	—
常に時を表示		
常に分を表示		
常に秒を表示		
アナログ時刻合わせに使用		
切り替え前の表示 （クロノグラフは除く）	最大深度呼び出し／ 現在水温表示	最大深度呼び出し／ 最低水温表示
切り替え前の表示 （クロノグラフは除く）	—	—
切り替え前の表示 （クロノグラフは除く）	—	— 時刻／カレンダーモードへ

*2 潜水月日／潜水時間／潜水終了時刻／最低温度

C. モード切り替え

□内のどのモードからも

1. (M)ボタンを2秒以上押すとダイブモード(潜水準備表示)に切り替わります。
2. 水感知センサーが働いたときダイブモード(潜水準備表示)に切り替わります。

図の様に(M)ボタンを押す毎にモードが切り替わります。

( ) 1回押し
(( )) 2秒以上押し続ける

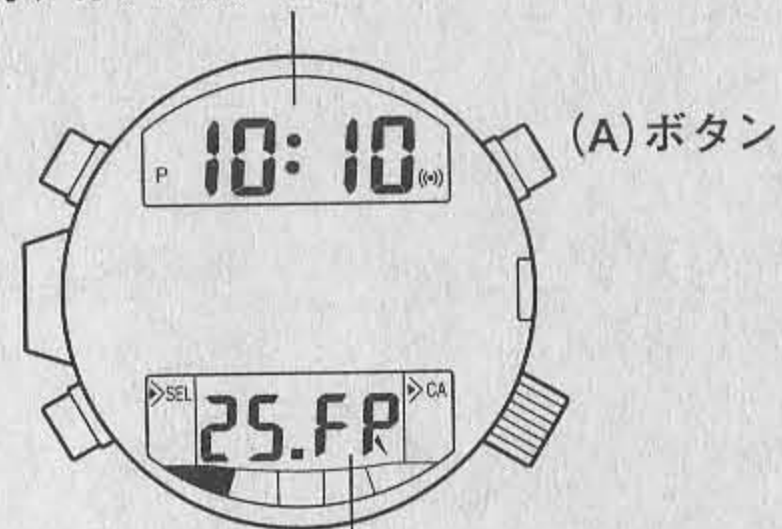
ダイブモード
(潜水準備表示)

D. 時刻／カレンダーモード

デジタル表示(Ⅰ)
時、分、AM／PM

10:10

(A)ボタン

25.FP

デジタル表示(Ⅱ)
日、曜／秒　または温度計測

デジタル表示(Ⅱ)の切り替え

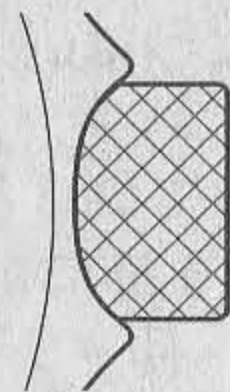
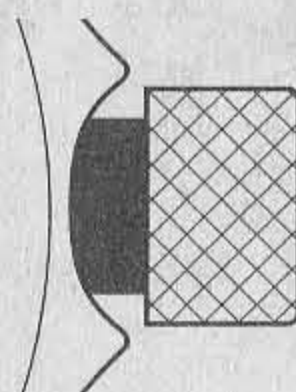
1. (A)ボタンを押して日、曜または秒の切り替えができます。
2. (A)ボタンを2秒以上押し続けると温度計測表示に切り替わります。温度計測は10秒毎に3分間計測表示します。

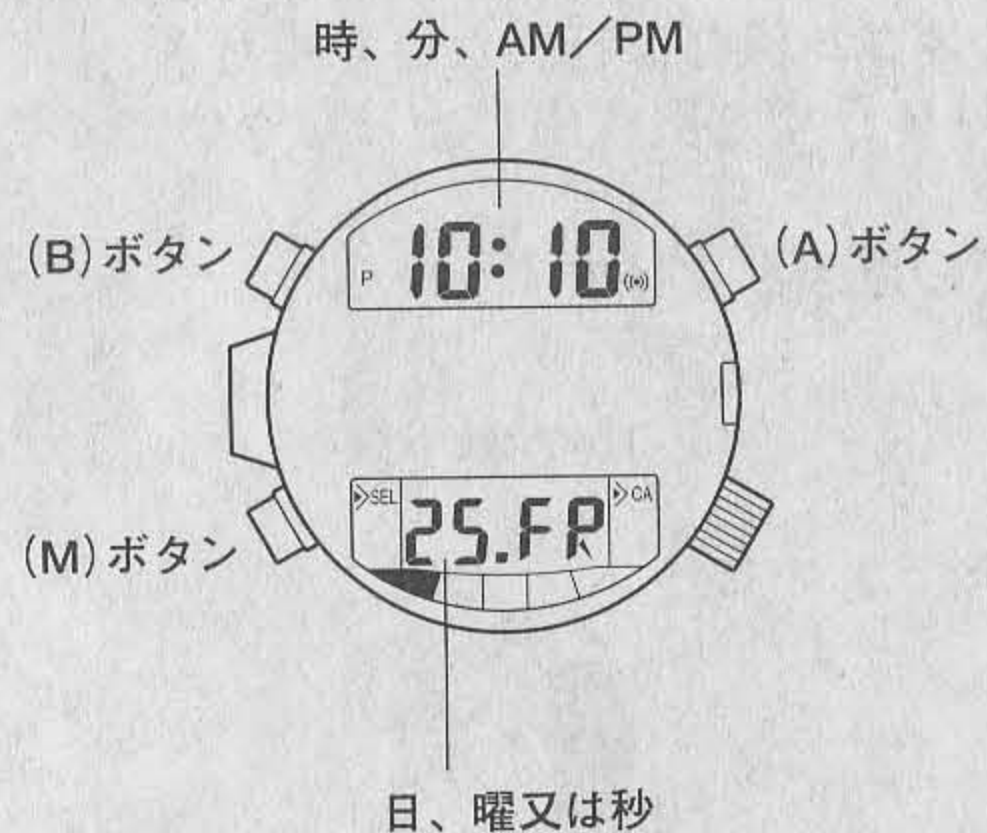
温度測定を行う場合は時計を腕から外し、外気の温度になじませてから測定してください。装着したまま測定すると、携帯温度の影響を受けます。

〈りゅうず操作について…〉

ネジロック

1. りゅうずは常にきちんと通常位置に戻してネジロックしてご使用ください。
2. りゅうずを引き出した状態ではすべてのボタン操作は行わないでください。
3. 水滴などが時計に付着しているときはりゅうずを引き出したりしないでください。
   時計内部に水分が入り込み防水不良などの原因となります。

ネジロック状態

ネジロック解除状態

時計・カレンダー合わせ

a. デジタル部→b. アナログ部の順に合わせます

a. デジタル部

時刻・カレンダー合わせ

1. 時刻表示状態で(B)ボタンを2秒以上押し続けると秒が点滅して修正状態に切り替わります。
2. 秒が点滅しているときに(A)ボタンを押すと秒は0秒から再びスタートします。
3. 秒が点滅しているときに(B)ボタンを1回押す毎に、点滅箇所が秒→分→時→月→日→年→12／24時間表示と切り替わり修正したい箇所を選べます。

4. 修正したい箇所を選んだら(A)ボタンを押して修正します。
   ((A)ボタンを押し続けると修正箇所は早送りされます。)

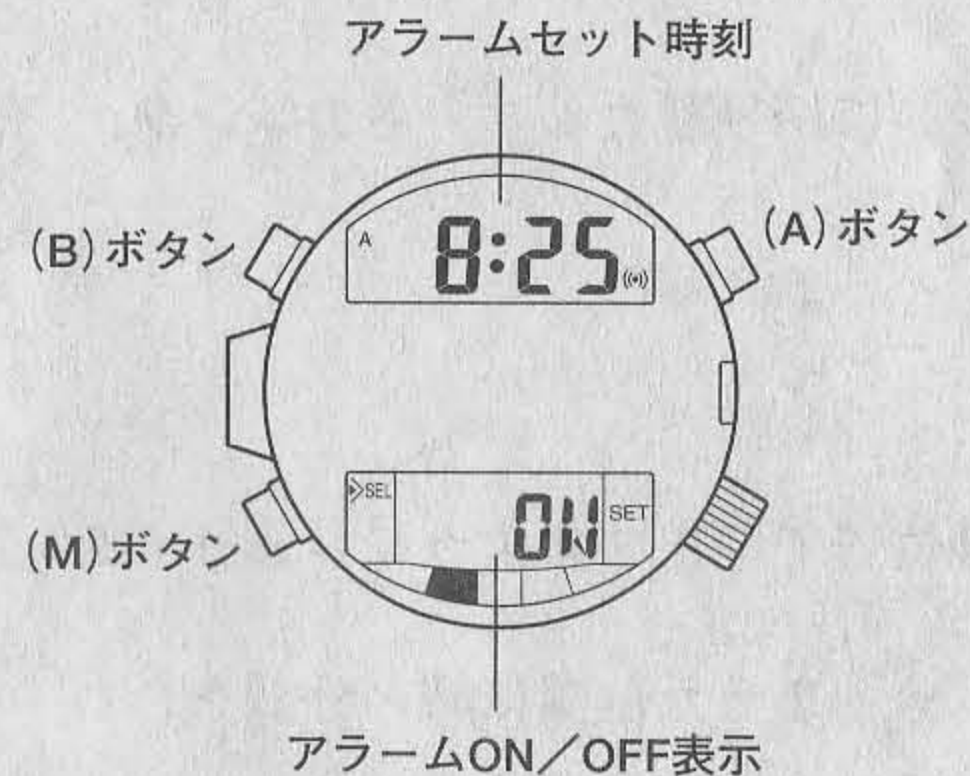
* 12／24時間表示は(A)ボタンを押す毎に交互表示されます。
* どの修正状態にあっても3分以上放置しておくと、自動的に修正状態が解除されて通常の時刻表示状態に切り替わります。
* どの修正状態にあっても(M)ボタンを押すと、通常の時刻表示状態に切り替わります。
* カレンダーは月末から翌月の1日へは自動的に切り替わるオートカレンダーです。

b. アナログ部

時刻合わせ

1. りゅうずのネジをゆるめてから秒針が0秒位置で停止するようにりゅうずを引き出します。
2. りゅうずをまわして、デジタル時刻より1分進ませた位置に時・分針を合わせます。
3. デジタル時刻の「秒」が「0」になったとき、りゅうずをきちんと押し込んで針をスタートさせます。

E. アラームモード

・アラームON表示の時に毎日1回アラームのセット時刻になるとアラームが15秒間鳴ります。
ただし、ダイビングモードのときは鳴りませんのでご注意ください。

アラーム時刻のセット

1. アラームモードのときに(B)ボタンを2秒以上押すと時が点滅し、アラームは自動的にON表示になります。
2. 時が点滅しているときに(A)ボタンを押して時をセットします。
3. 次に(B)ボタンを押して時→分へ点滅箇所を切り替えます。
4. (A)ボタンを押して分をセットします。
＊(A)ボタンを押し続けると時、分とも早送りできます。
5. (B)又は(M)ボタンを押してセットは完了です。

＊アラームの12H/24H制は時刻・カレンダーに連動しています。

アラームON/OFF

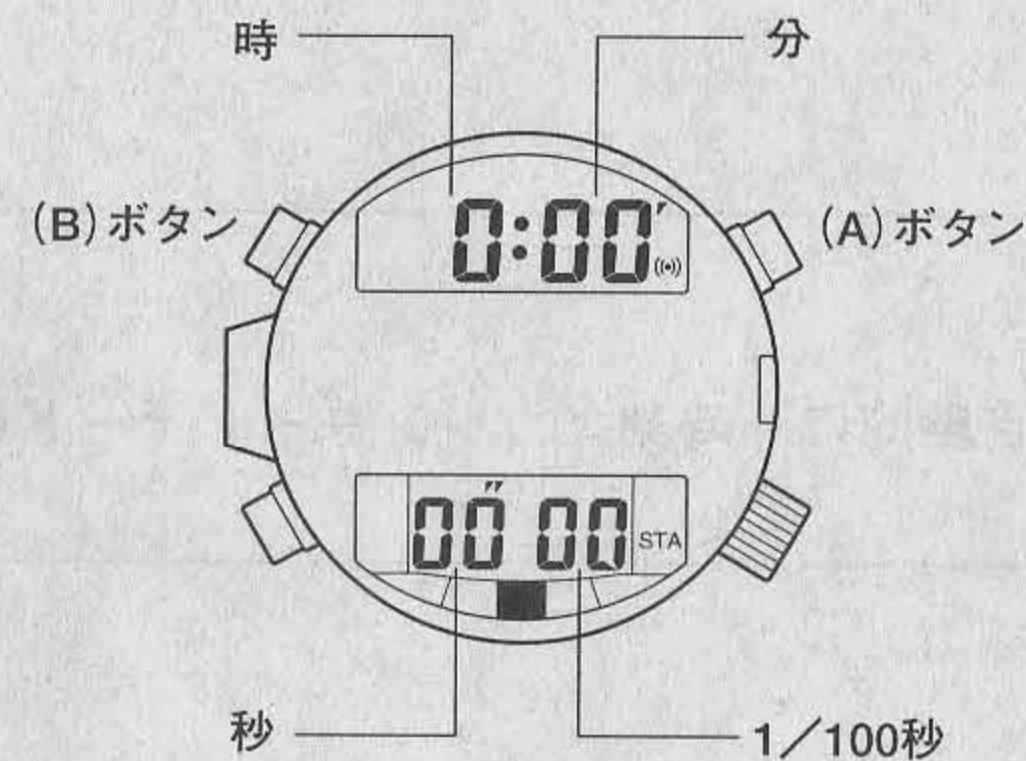
(A)ボタンを押す毎にアラームON/OFFの切り替えが出来ます。

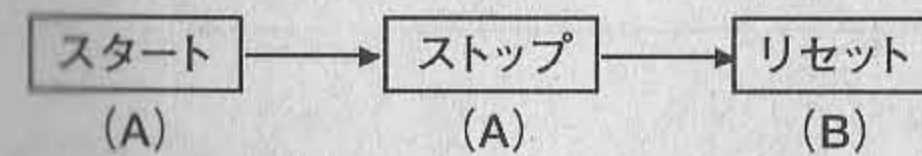
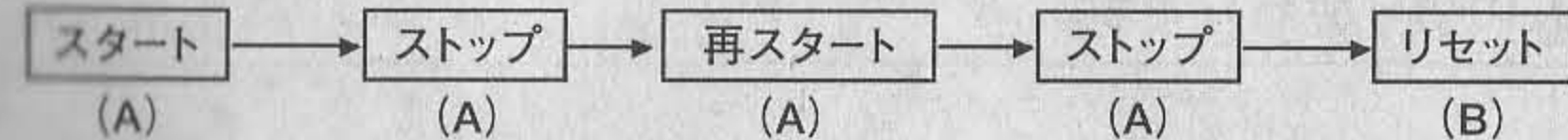
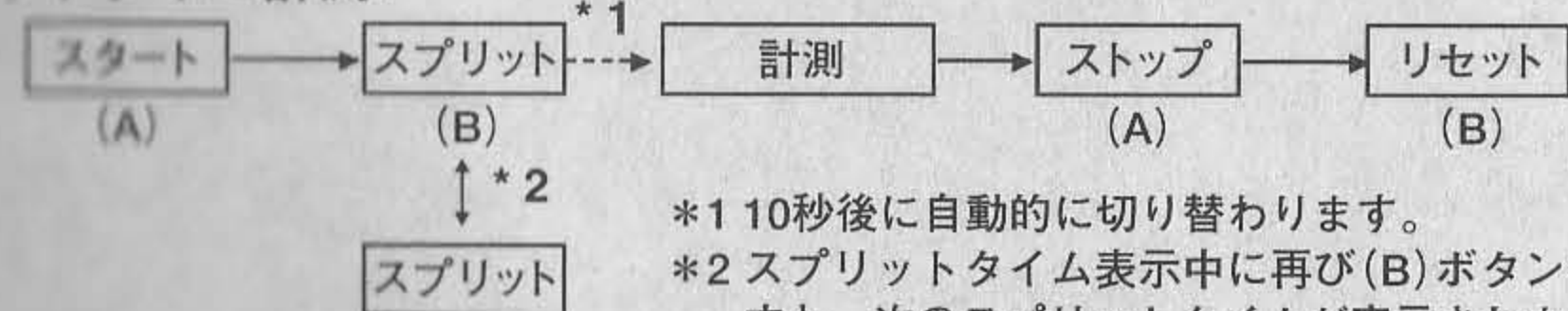
アラーム音モニター

アラーム表示のときに(A)ボタンを2秒以上押し続けるとアラーム音の確認ができます。

付加機能
〈オートリターンシステム〉
・アラームモードが3分以上続くと自動的に「時刻/カレンダー」モードに切り替わります。

F. クロノグラフモード

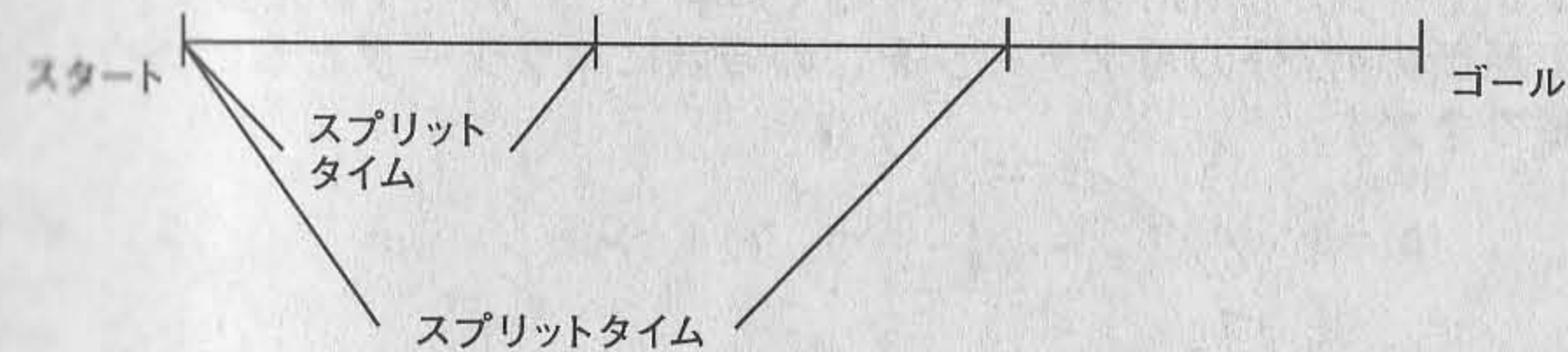
・クロノグラフは1／100秒単位で最大24時間までの計測ができます。
・24時間後は0位置へリセットされて停止します。

クロノグラフの使い方

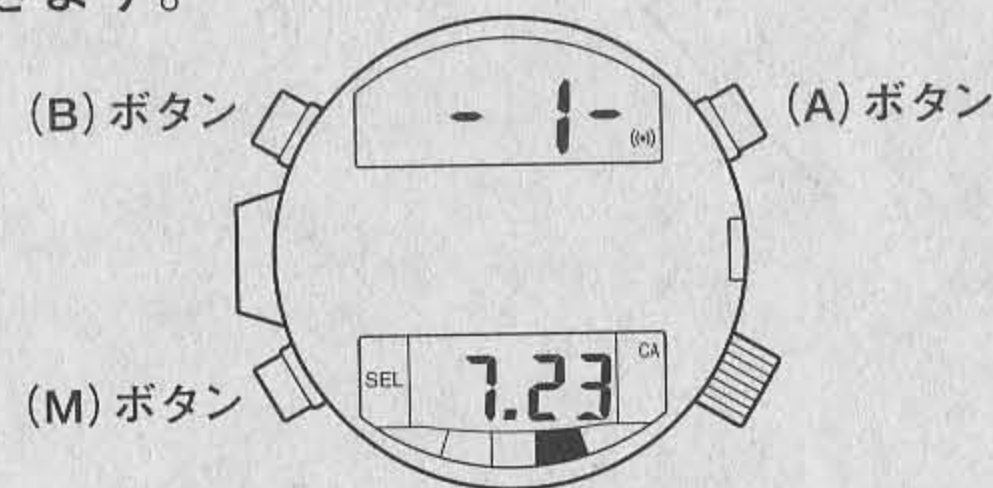
〈一般計測〉

〈積算計測〉

〈スプリットタイム計測〉

＊1 10秒後に自動的に切り替わります。
＊2 スプリットタイム表示中に再び(B)ボタンを押すと、次のスプリットタイムが表示されます。

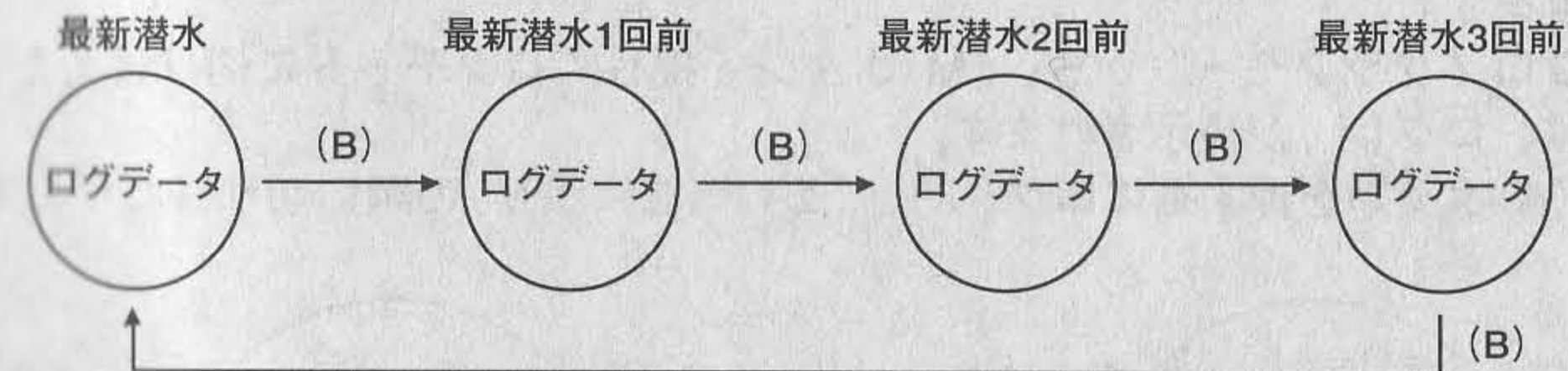
〈注意〉
・クロノグラフ計測中は、他のモードへの切り替えは出来ません。

付加機能
〈オートリターンシステム〉
・クロノグラフリセット状態が3分以上続くと自動的に「時刻／カレンダー」モードに切り替わります。

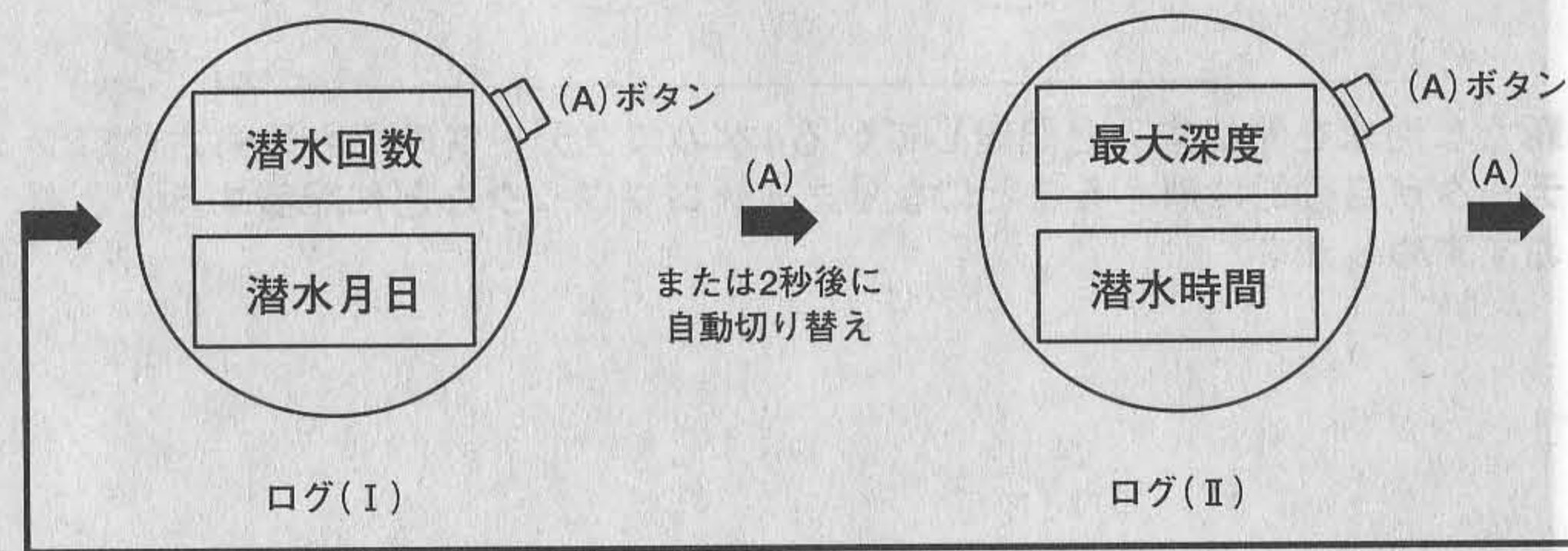
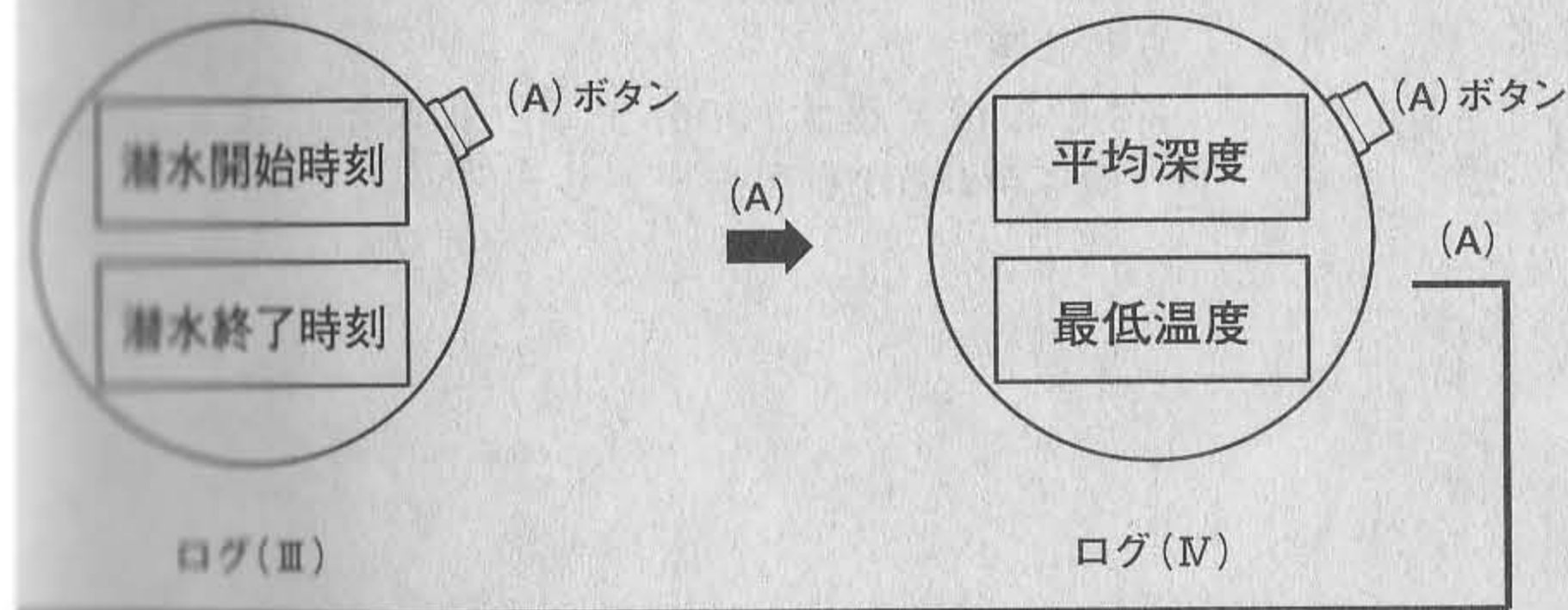
スプリットタイム：スプリット操作をする毎にスタートからの経過時間を表示します。

G．ログモード

クロノグラフモードから(M)ボタンを押してログモードに切り替えます。
潜水回数で最新の4回分の潜水データをこの時計にログデータとしてカウントすることができます。

ログ表示の切り替え方

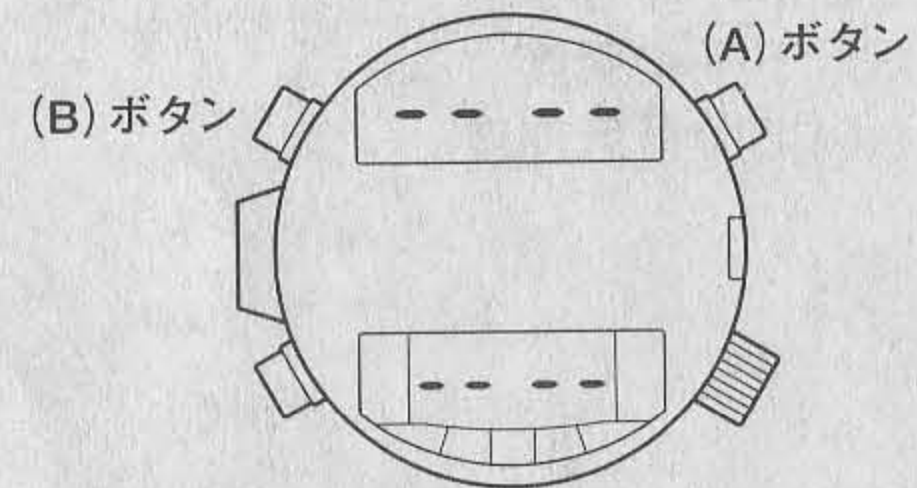
・4回分のログデータを呼び出すためには、(B)ボタンを押す毎に最新潜水データから順に前にさかのぼって表示します。

・どのログモードにおいても、3分以上放置しておくと自動的に、時刻／カレンダーモードに切り替わります。(オートリターン)

＊新たな潜水を開始すると記憶している4本のログデータのうち最も古いログデータが自動的に消えることになります。ログブックなどに記録することをおすすめします。

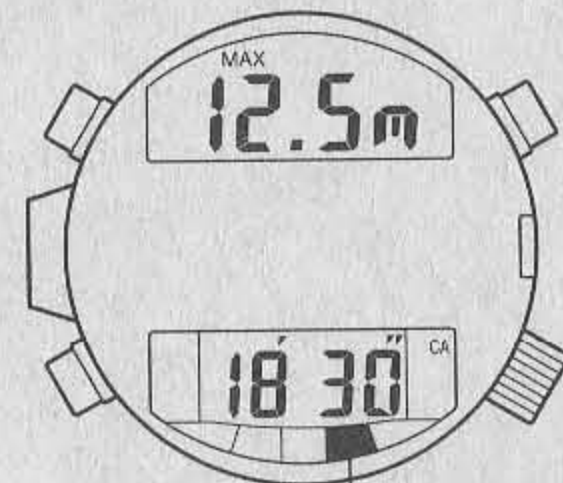
この時計はダイビングを行うと一回の潜水において次の8種類のログデータが自動的に記録されます。
この8種類のログデータはログ(Ⅰ)、(Ⅱ)、(Ⅲ)、(Ⅳ)の順に呼び出すことができます。

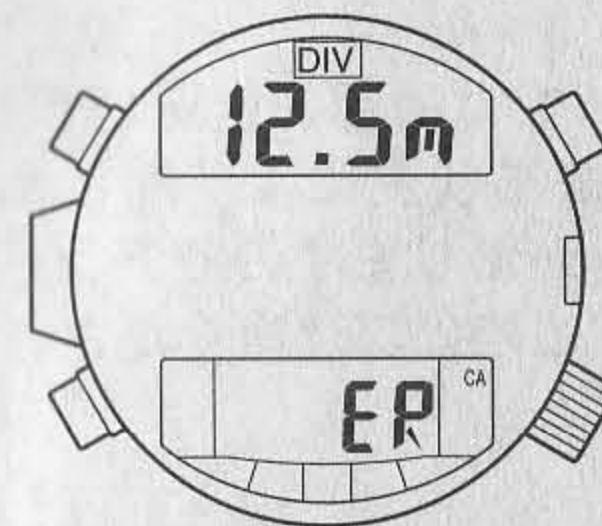
・クロノグラフモードから、(M)ボタンを押してログモードに切り替えたときは、ログ(Ⅰ)が表示されます。
・(A)ボタンを押す毎にログ(Ⅰ)、(Ⅱ)、(Ⅲ)、(Ⅳ)の順に切り替わります。

・ログ(Ⅰ)表示のときだけ(A)ボタンを押さなくとも2秒後にはログ(Ⅱ)表示へ自動的に切り替わります。
但し水感知センサーが水分を感知してダイブモード(潜水準備状態)に切り替わった場合は、まれにログ(Ⅰ)表示からログ(Ⅱ)表示へ自動的に切り替わらないことがあります。
このような場合は、(A)ボタンを押して切り替えてください。

1. 潜水回数：　その日に行ったダイビングの回数です。最大9回までカウントします。日付が変わると再び1回目からとなります。
2. 潜水月日：　ダイビングを行った月・日。
3. 最大深度：　そのダイビングにおいて最も深く潜ったときの深度。
4. 潜水時間：　そのダイビングで水深1m以深にいた合計時間です。ただし水深1m以浅になってから10分以内に再び1m以深に潜水すると潜水時間はストップ時点から継続されます。
＊1秒単位で最大100分まで計測表示します。その後は再び0からスタートします。

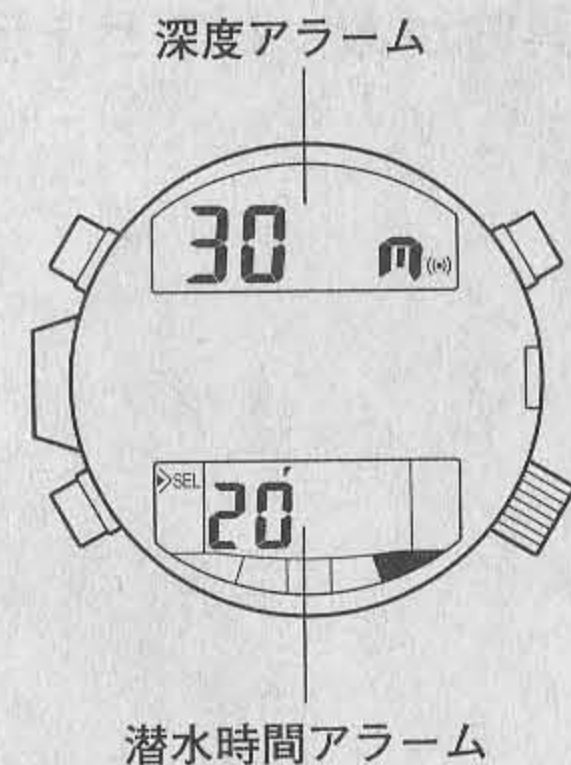
5. 潜水開始時刻：　水深1m以深になったときの時刻。
6. 潜水終了時刻：　水深1m以浅になったときの時刻。
7. 平均深度：　1回のダイビングにおける平均深度。
8. 最低温度：　1回のダイビングにおいての最低温度。

すべてのログデータを消したい時は…

(A) ボタンと (B) ボタンを同時に2秒以上押すとすべてのログデータは消去されます。

【注意】

深度表示が点滅したら…

ログデータに異常があったことを示します。

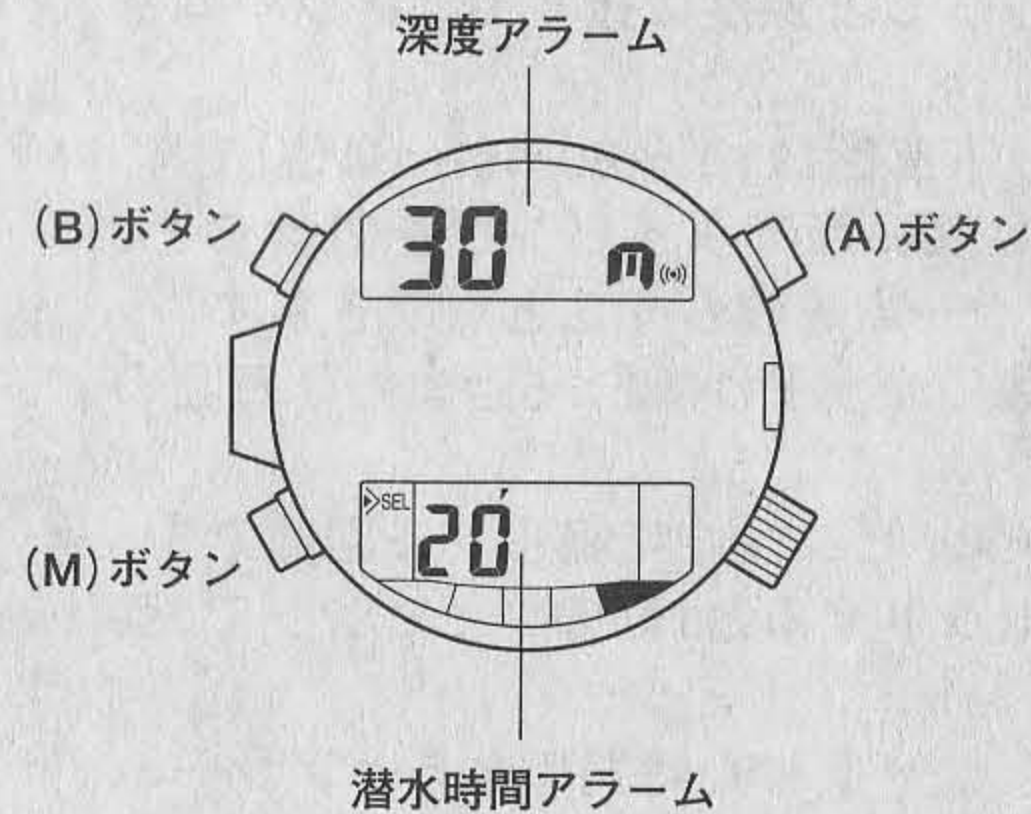
ER(エラー)表示になったら…

ログデータに異常があったことを示します。

H. ダイブアラームモード

（注）アラーム音は周囲の状況（気泡音など）・携帯状況により聞こえにくい場合がありますのでアラームを使用する際はご注意ください。

この時計のダイブアラームには、次の2種類のアラーム機能があります。

1. 深度アラーム機能：ダイビング中、セットした深度に達するとアラーム音が15秒間鳴ります。
   深度アラームのセット範囲は1m～80m（1m単位）です。
   セットした深度より深い所でダイビングを続けると、1分毎に繰り返しアラームを鳴らすこともできます。
   アラームの鳴り回数のセットは0回～5回または毎回の中から選べます。
   ＊この回数は1回のダイビング中に鳴らせる回数です。
   鳴り回数を「1」にセットすると1回のダイビングで1回だけ鳴ります。
2. 潜水時間アラーム機能：ダイビング開始後、セットした時間になるとアラーム音が15秒間鳴ります。
   このアラーム音は繰り返し鳴らすことはできません。

＊この時計にはその他、潜水中に浮上速度が10秒間に1.5mを超えると、浮上速度警告として10秒間アラームを鳴らす浮上速度警告アラームが搭載されています。

深度アラーム／潜水時間アラームのセット

1) (B)ボタンを2秒以上押し続けダイブアラームモードを修正状態にします。
(深度セット値が点滅します。)
このときデジタル表示(Ⅱ)は潜水時間アラーム表示から鳴り回数表示へと切り替わります。
2) (A)ボタンを押して鳴らしたい深度にセットします。
(A)ボタンを1回押す毎に1mずつ深いセットができ80m以後は再び1mにもどります。
＊(A)ボタンを押し続けるとこのセット値が早送りします。

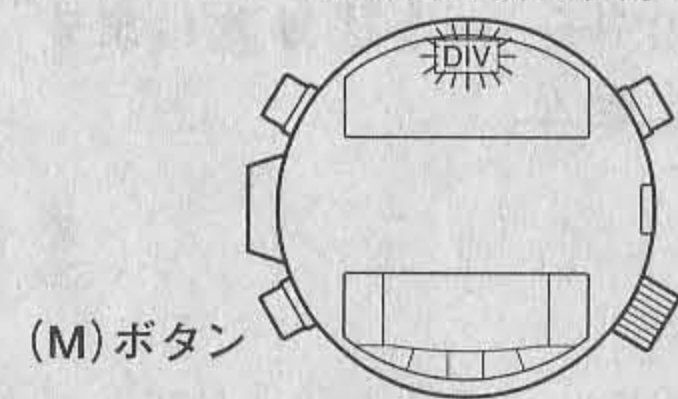
3) (B)ボタンを押して、鳴り回数の修正状態にします。(鳴り回数が点滅します。)
4) (A)ボタンを押して鳴り回数をセットします。
鳴り回数の表示は、ON→OFF→1→2→3→4→5→ONを繰り返します。
ON:セット値より深いところでは1分毎に深度アラームが鳴ります。
OFF:深度アラームは鳴りません。
5) (B)ボタンを押して、潜水時間アラーム表示を修正状態にします。
(潜水時間セット値が点滅します。)
6) (A)ボタンを押して潜水時間をセットします。
潜水時間の表示は、ーー→05→10→15→……→95→ーーを繰り返します。
＊ーー表示のときは、潜水時間アラームは鳴りません。
7) (B)または(M)ボタンを押して、セット完了です。

ダイブアラーム音モニター

ダイブアラームモードで(A)ボタンを押し続けると、深度アラーム→潜水時間アラーム→浮上速度警告音の順に4秒毎の繰り返しアラームモニターができます。

I. ダイブモード

どのモードにおいても(M)ボタンを2秒以上押し続ければダイブモードの【準備表示】に切り替わります。
尚、このボタン操作で切り替えた【準備表示】状態を約60分放置しておくと自動的に切り替え前のモードに戻ります。
ダイブモードは3つの表示から構成されています。

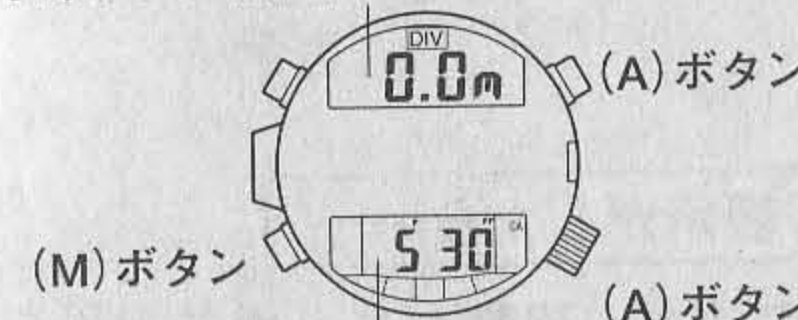
【準備表示】・DIVマークが点滅
・切り替え前の表示

(M)ボタンを2秒以上押し続けると時刻／カレンダーモードに切り替わります。

【水深計測表示】・DIVマークが点灯
・水深が表示

・潜水時間を表示
(A)ボタンを押している間、最大深度と水温を表示します。

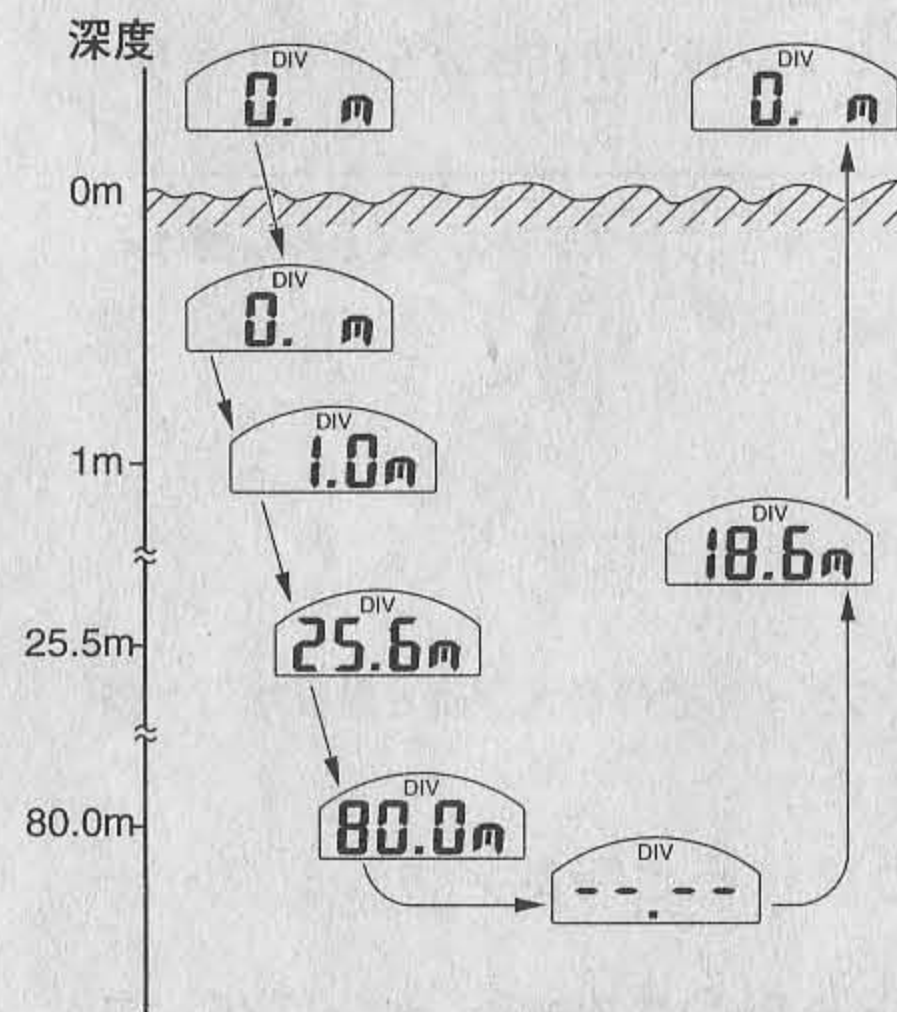
1. 【準備表示】のままで潜水を開始して水深1m以上になると自動的に【水深計測表示】に切り替わります。
2. 水深1m未満になると自動的に【計測後0m表示】に切り替わります。

付加機能
〈水感知センサー機能〉
この時計は、どのモードが表示されていても水感知センサーが水分を感知すると自動的にダイブモード【準備表示】に切り替わります。
＊ただし、クロノ計測中だけは切り替わりません。ダイビング終了後に水分をきると自動的に時刻／カレンダーモードに切り替わります。

【計測後0m表示】　(( ))：ボタンを2秒以上押し続ける
・DIVマークが点灯
・水深が0.0m点滅表示

・潜水時間を表示
(A)ボタンを押している間、このダイブでの最大深度と最低水温を表示します。

3. 【計測後0m表示】で(M)ボタンを2秒以上押し続けると時刻／カレンダーモードに切り替わります。

＊.【計測後0m表示】を10分間以上放置しておくと自動的に時刻／カレンダーモードに切り替わります。
また10分以内に1m以深に潜水するとその回のダイビングの継続となります。

水深計測表示について

1．水深計測

水深計測は毎秒行い、その時の深度を計測表示します。

水深計測単位：0.1m

計測範囲：1.0m〜80.0m

水深計測が1m未満の時：0.0m表示

水深計測が80mを超えた時：ーー.ーm表示

ER(エラー)表示がしたら……

その時の深度計測に異常があったことを示します。

2．潜水時間計測

水深計測が1.0mになると自動的に潜水時間計測がスタートして、再び1.0m未満を計測すると潜水時間計測はストップします。

尚、ストップしてから10分以内に再び水深計測が1.0m以深になると潜水時間計測はストップ時からの継続計測になります。

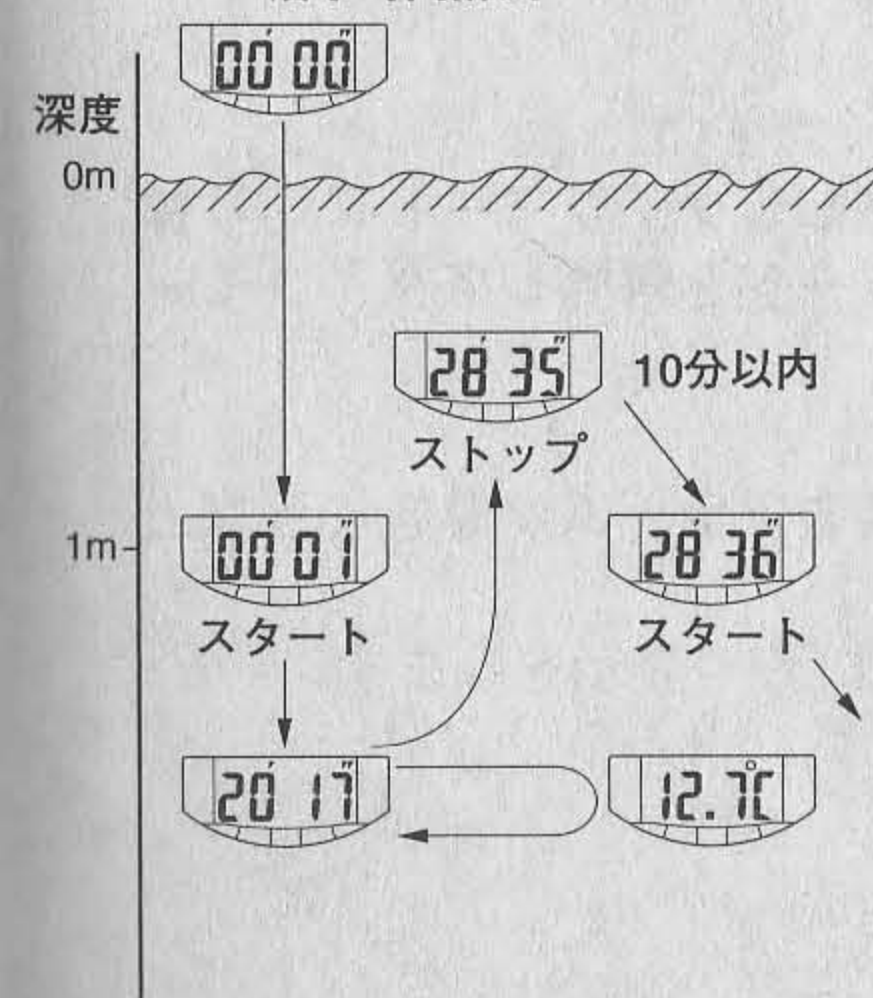
3．水温計測

深度1.0m以深を計測すると1分後から水温計測を開始します。その後1分毎の計測を行います。

水温計測単位:0.1℃

計測範囲：ー5.0℃〜+40℃

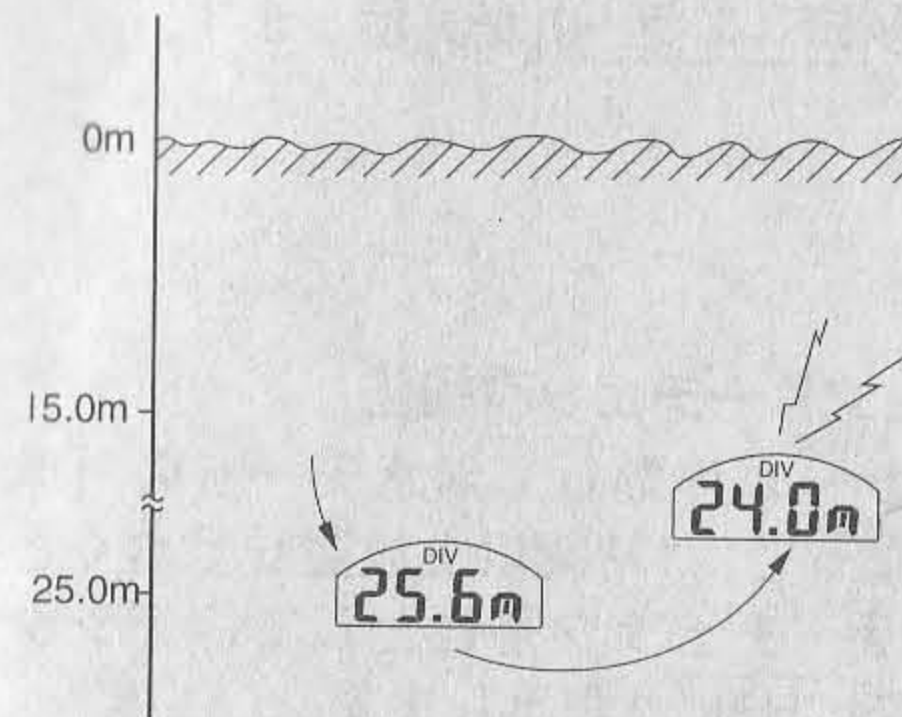
水温計測前と水温計測範囲外のとき：ーー.ー℃表示

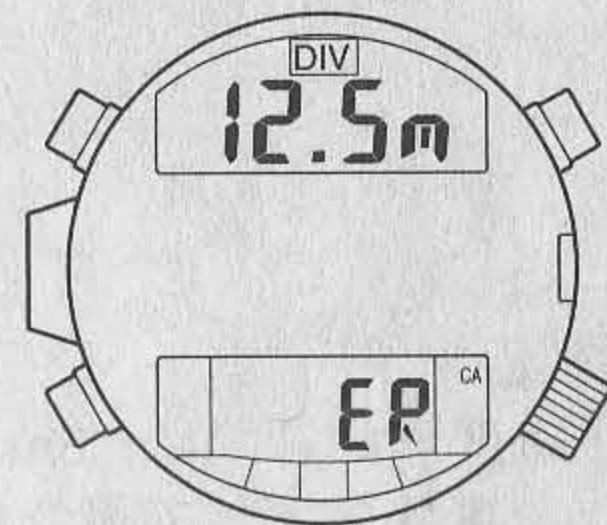
＊潜水時間表示の時に(A)ボタンを押し続けている間はこの水温計測表示に切り替わります。

J. ダイビング使用上の注意

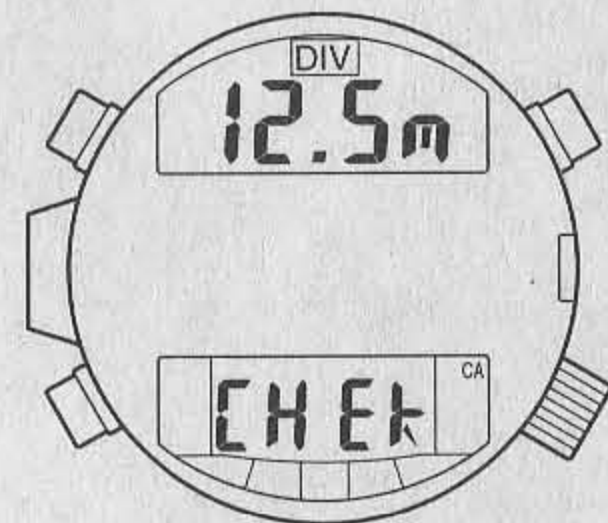
【正しい水深計測をするために】

1. ダイビングの直前にダイブモードに切り替えてください。
   陸上などで水感知センサーが汗などの水分を感知しダイブモードに切り替わっていたら、水分を拭き取って一度ダイブモードを解除してダイブモードに切り替えてください。
2. 急浮上、急潜降はさけてください。
   10秒間に1.5m以上の急浮上を行うと浮上速度警告アラームが最低10秒以上鳴ります。
   1秒間に4m以上の急浮上、急潜降を行うとER(エラー)表示をします。

K. 各種警告機能について

この時計には次のような各種警告機能があります。
安全潜水のための目安としてご活用ください。

1. 浮上速度警告

潜水中に浮上速度が10秒間に1.5mを超えると、浮上速度警告として最低10秒以上アラームを鳴らします。

2．異常深度警告

水深計測中に1秒間で4m以上の急激な深度変化があると、デジタル表示（Ⅱ）に[ER（エラー）]が表示します。圧力センサーに異常があるときは陸上でも[ER（エラー）]が表示します。

3．水感知センサーチェック警告

水感知センサーが作動して潜水モードの【準備表示】になって、1時間以上放置しておくと水感知センサーチェック警告として、デジタル表示（Ⅱ）に[CHEk]が表示します。

L．このような場合には

[秒針が2秒間隔で動く]

電池寿命切れが近づいて電池寿命切れ予告装置が働いています。

このような場合には早めに電池交換をしてください。
（この時も時計は正しい時刻で動いています。）
なお、この機能が働くと以下の事ができませんのでご注意ください。

1. 各種のアラームが鳴りません。
2. ダイブモード【準備表示】への切り替えができません。
3. ダイブモード【準備表示】で働くと【水深計測表示】への切り替えができません。
4. 【水深計測表示】で働くとダイブアラームが鳴りません。ただちにダイビングを中止してください。
5. 【温度計測表示】で働くとこの表示へ切り替える前の表示に戻ります。
6. 水感知センサーチェック警告表示がでている場合は、警告表示が中止されます。

N. 電池について

a. 電池寿命

この時計の電池寿命は新しい電池を組み込み後約2年です。
〈使用条件の目安〉
ダイビングの回数：50回／年　1回の潜水時間：1時間
尚、各種アラームなどの使用頻度によっても電池寿命に影響します。さらに、ダイビング以外で時計を濡らすと水感知センサーが働いてその分電池寿命が短くなりますのでご注意ください。

b. 最初の電池

お買い上げの時計にあらかじめ組み込まれている電池は、機能・性能を見るためのモニター用電池です。
お買い上げ後2年に満たないうちに電池寿命が切れることがありますのでご了承ください。

c. 電池交換

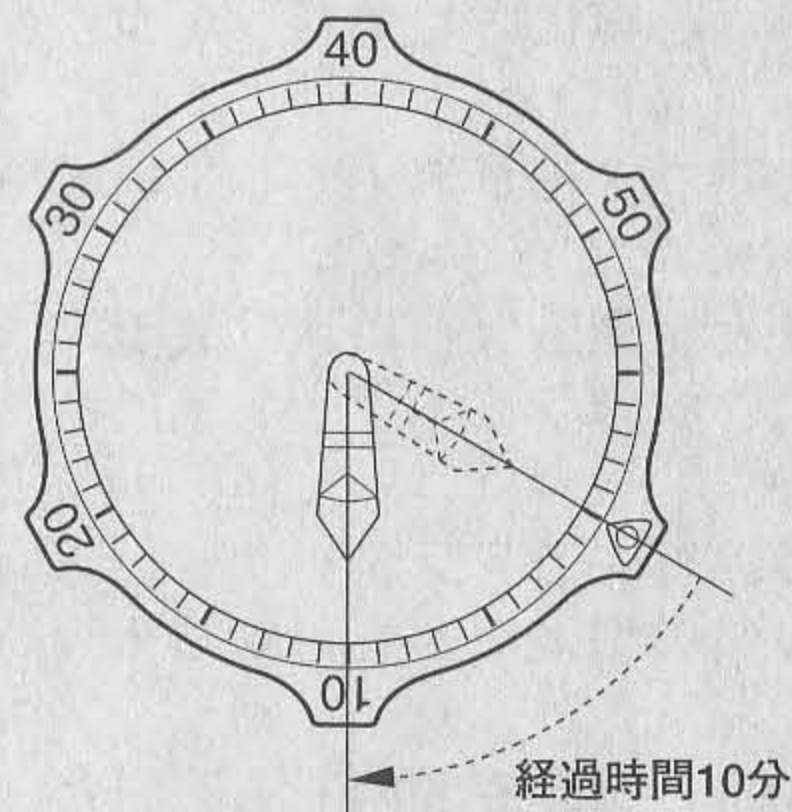
1. 電池交換はすべて「メーカー修理」となりますので、お買い上げ店を通して、または、最寄りの弊社お問い合せ窓口にご依頼ください。
2. 電池交換の際は、防水検査などのチェック及び、必要に応じてパッキング類の交換も実施します。
3. 電池交換により、最大深度メモを始めすべてのログメモが消えてしまいますので、あらかじめログブックなどに記録しておいてください。
4. 電池寿命切れの電池をそのままにしておきますと、漏液などにより故障の原因となります。
   早めに電池交換をすることをおすすめします。
5. 長期間海外で使用するときは、場所によっては旅行先でアフターサービスが受けられない場合がありますので、お出かけ前の電池交換をおすすめします。
6. 電池交換及び、それに付随する検査・部品交換は、保証期間内でも有料となります。

O. その他の機能

【回転ベゼル】

回転ベゼルとは、時計本体のまわりに付いている回転リングの部分をいいます。
・経過時間を測定する時、または、残りの時間を測定する時に使います。

—回転ベゼルの使い方—

潜水を開始する時に回転ベゼルを左回転させ ▽ マークを分針に合わせます。以後、分針の指す上の目盛りを読めば経過時間がわかります。
(例) 右図では潜水を開始(▽ マーク位置)してから、10分(分針に対応した回転ベゼル上の目盛)が経過したことを示しています。

⚠注意

・回転ベゼルは誤動作防止のため反時計方向にだけ回転させることができます。無理な力で時計方向に回転させようとすると回転ベゼルの破損になりますのでご注意ください。
・回転ベゼルを使用するときはセット時間に多少の余裕を持たせ、あくまで目安としてご利用ください。

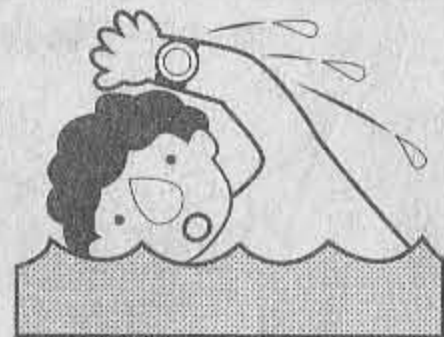
【無減圧限界値】(No Decompression Limits)

ダイバーが潜水を終わって浮上する途中、減圧のための停止をしないで海面に浮上できる範囲は、潜水深度と潜水時間により決まります。この範囲を示したものが無減圧限界値(No Decompression Limits)です。
この時計のバンドには、米国海軍ダイビングマニュアル(1985版)に基づいた無減圧限界値(No Decompression Limits)が印刷してあります。(モデルにより印刷されていないものもあります)

No Decompression Limits
(無減圧限界値)

＊この無限圧表は1回の潜水のためのものです。

—無減圧限界値の読み方—

DEPTH.m (最大深度m)	N.D.TIME (無減圧時間)
12m	200分
15m	100分
18m	60分
21m	50分
24m	40分
27m	30分
30m	25分
33m	20分
36m	15分
39m	10分
42m	10分
45m	5分

(例)
21mの深さまでもぐった時の潜水時間が50分以内であれば、減圧のための停止をせずに浮上してもよいというようにお読みください。

P. 末永くご愛用いただくために

■防水性能

⚠ 警告　防水性能について

・この時計は200m防水時計です。空気ボンベを使用した空気潜水（スキューバ潜水）には使用できますが、ヘリウム雰囲気中（飽和潜水など）での使用はできません。

表示	使用例				
ケース（裏ぶた）	水がかかる程度の使用（洗顔、雨など）	水仕事や、一般水泳に使用。	スキンダイビング、マリンスポーツに使用。	空気ボンベを使用するスキューバ潜水に使用。	ヘリウムガスを使用する飽和潜水に使用。
AIR DIVER'S 200m	○	○	○	○	×

りゅうずは常にきちんとロックしてご使用ください。

⚠警告　電池の取り扱いについて

- 幼児の手の届かないところに置いてください。
- 誤って電池を飲み込んだ場合にはただちに医師と相談して治療を受けてください。

⚠注意　電池交換について

- 電池寿命切れの時計をそのままにしておきますと、漏液等により故障の原因となることがあります。早めに電池交換してください。
- 電池交換の際は必ず指定電池をご使用ください。

⚠注意　バンドのお取り扱いについて(着脱時の注意)

- バンドの中留め構造によっては、着脱の際に爪を傷つける恐れがありますのでご注意ください。

⚠注意　携帯時の注意

- 幼児を抱くときなどは、幼児のけがや事故防止のため、あらかじめ時計を外すなど充分ご注意ください。
- 激しい運動や作業などを行うときは、ご自身や第三者へのけがや事故防止のため、充分ご注意ください。
- サウナなど時計が高温になる場所では、火傷の恐れがあるため絶対に使用しないでください。
- ウレタンバンドは、衣類などの染料や汚れが付着し、除去できなくなる場合があります。色落ちするもの(衣類、バッグ等)と一緒に使用する場合はご注意ください。

<時計のお手入れ方法>

- ケース、ガラスの汚れや汗などの水分は柔らかい布で拭き取ってください。
- 皮革バンドは乾いた布で、汚れを取ってください。
- 金属バンド／プラスチックバンド／ゴムバンドは水で汚れを洗い落としてください。金属バンドのすき間につまったゴミや汚れは柔らかいハケなどで取り除いてください。
- 溶剤類(シンナー、ベンジンなど)の使用は、変質の恐れがありますのでお避けください。

⚠ 注意　時計は常に清潔に

- ケースやバンドは肌着類と同様に直接肌に接しています。金属の腐食や汗、汚れ、ほこりなどの気づかない汚れで衣類の袖口などを汚す場合があります。常に清潔にしてご使用ください。
- かぶれやすい体質の人や体調によっては、皮膚にかゆみやかぶれを生じることがあります。異常を感じたら、ただちに使用を中止してすぐに医師に相談してください。
  かぶれの原因は
  1. 金属、皮革アレルギー
  2. 時計本体及びバンドに発生したサビ、汚れ、付着した汗などです。
- 皮革バンドは汗や汚れにより「色落ち」を起こすことがあります。乾いた布で拭くなどして常に清潔にご使用ください。
- バンドは多少余裕を持たせ、通気性を良くしてご使用ください。

<ナチュライト付きの場合>

- 「ナチュライト」は、放射線物質などの有害物質を一切含まない人体や環境に安全な物質を使用した塗料です。
  ナチュライトは、太陽光や室内照明などの光を蓄え、暗い所で発光します。ただし、蓄えた光を放出させるため、時間の経過と共に少しずつ明るさ(輝度)は落ちていきます。また、光を蓄えるときの光の明るさや光源からの距離、光の照射時間などによって発光する時間に誤差が生じます。
  光が充分に蓄えられていないと、暗い場所で発光しなかったり、発光してもすぐに暗くなってしまう場合がありますのでご注意ください。

<温度について>

- 0℃～＋55℃の温度範囲外では機能が低下したり、停止することがあります。製品仕様範囲外でのご使用はお避けください。

＜磁気について＞

● アナログ式クオーツ時計は、磁石を利用した「ステップモーター」で動いており、外部から強い磁気を受けるとモーターの動きがみだされて、正しい時刻を表示しなくなる場合があります。磁気の強い健康器具（磁気ネックレス・磁気健康腹巻など）、冷蔵庫のマグネットドア、バッグの留め具、携帯電話のスピーカー部、電磁調理器などに近づけないでください。

＜静電気について＞

● クオーツ時計に使われているICは、静電気に弱い性質を持っています。強い静電気を受けると正しい時刻を表示しない場合がありますので、ご注意ください。

＜ショックについて＞

● 床面に落とすなどの激しいショックは与えないでください。

＜化学薬品・ガス・水銀について＞

● 化学薬品・ガスの中でのご使用はお避けください。シンナー・ベンジン等の各種溶剤及びそれらを含有するもの（ガソリン・マニキュア・クレゾール・トイレ用洗剤・接着剤など）が時計に付着しますと、変色・溶解・ひび割れ等を起こす場合があります。薬品類には充分注意してください。また、体温計などに使用されている水銀に触れたりしますと、ケース・バンド等が変色することがありますのでご注意ください。

＜保管について＞

● 長期間ご使用にならないときは、汗・汚れ・水分などを良く拭き取り、高温・低温・多湿の場所を避けて保管してください。また、電池寿命切れの電池を入れたまま長期間放置しますと、電池の漏液により機械部品が損傷する場合がありますので、ご注意ください。

Q. 保証とアフターサービスについて

<保証について>

正常なご使用で、保証期間内に万一故障が生じた場合には、保証書に従い、無料修理いたします。

<修理用部品の保有期間について>

当社は、時計の機能を維持するための修理用部品を通常7年間を基準に保有しております。ただし、ケース・ガラス・文字板・針・ボタン・バンドなどの外装部品については、外観の異なる代替部品を使用させていただく場合がありますので、予めご了承ください。

<修理可能期間について>

当社の修理用部品の保有期間中は修理が可能です。ただし、ご使用の状態・環境でこの期間は著しく異なります。修理の可否については、現品ご持参の上販売店でご相談ください。なお、長期間のご使用による精度の劣化は、修理によっても初期精度の復元が困難な場合があります。

<ご転居・ご贈答品の場合>

保証期間中にご転居されたり、ご贈答品のためにご使用の時計がお買い上げ店のアフターサービスを受けられない場合には、最寄りの弊社お問い合わせ窓口でご相談ください。

<定期点検(有償)について>

安全に永くご使用いただくために、2～3年に一度、点検(有償)を行ってください。

防水時計の防水性能は、経年劣化しますので、防水性能を維持するために、部品の交換が必要です。必要に応じてパッキングやバネ棒などの交換を行ってください。

部品交換の際は、純正部品とご指定ください。交換だけでなく他の部品の点検または修理を行う必要がある場合もありますので、交換修理料金など、詳しくはお買い上げ店または最寄りの弊社お問い合わせ窓口でご相談ください。

<電池について>

お買い上げの時計に使用されている電池は機能・性能を確認するためのモニター用電池です。お買い上げ後、所定の電池寿命に満たないうちに寿命が切れてしまうことがありますのでご了承ください。

※電池寿命が切れた場合は、保証期間であっても電池交換は有料となります。

<その他お問い合わせについて>

保証や修理、その他不明な点がございましたら、お買い上げ店または、最寄りの弊社お問い合わせ窓口でご相談ください。

S．製品仕様

1. 機種　C50※（深度表示はメートル表示／温度は摂氏表示）
2. 時間精度　±20秒／月　常温（5℃～35℃）携帯時
3. 水深計測精度　±（表示値×3％＋30㎝）
   ただし使用温度一定、読み取り誤差を含まない場合
   ＊精度保証温度範囲：10℃～40℃
   水深計測精度は携帯温度変化の影響を受けます。
4. 温度計測精度　－5℃～＋14℃：±3℃以内
   ＋15℃～＋40℃：±2℃以内
5. 作動温度範囲　－10℃～＋60℃
6. 表示機能　1）アナログ表示
   時刻：時、分、秒
   2）デジタル表示
   時刻：時、分、秒、AM／PM
   カレンダー：日、曜　修正時　月、日、年（1994～2099年まで表示）
   温度：－5℃～40℃

アラーム：時、分、ON/OFF
クロノグラフ：時、分、秒、1/100秒(24時間計)、スプリットタイム計測
ログメモ：月、日
ダイビング回数……1〜9
最大深度……………1.0m〜80.0m
潜水時間……………100分
潜水開始時間………時、分
潜水終了時刻………時、分
平均深度……………1.0m〜80.0m
最低温度……………−5℃〜40℃
＊最新4回分のダイビング記録がメモ呼び出しできます。
ダイブアラームモード：
深度アラーム1.0m〜80.0m(1m単位 鳴り回数セット機能付き)
潜水時間アラーム……5分〜95分(5分単位)
ダイブモード：
準備表示………………DIVマーク点滅

水深計測表示…………1.0m〜80.0m(10cm単位)
＊1.0m未満は0m表示
80m以上は−−.−表示
・潜水時間(秒単位、100分計)
または温度表示(0.1℃単位
−5℃〜+40℃まで表示)
計測後0m表示 ・0.0m
・潜水時間(秒単位、100分計)
または最大深度(10cm単位、
最大80mまで表示)

7. 各種警告機能……・浮上速度警告
・異常深度警告
・水感知センサーチェック警告
8. 付加機能…………・電池寿命切れ予告装置
・ダイブアラームモニター

9.　使用電池…………電池　1個
10.　電池寿命…………約2年（新しい電池を組み込み後）
〈使用条件の目安〉
・ダイビング回数：50回／年
・1回の潜水時間：1時間
尚、各種アラームなどの使用頻度によっても電池寿命に影響します。さらに、ダイビング以外で時計を濡らすと水感知センサーが働いてその分電池寿命が短くなりますのでご注意ください。

＊製品仕様は、改良のため予告なく変更することがあります。

This watch is a diver's watch having a combination display (analog and digital) and equipped with an electronic depth meter.
When the watch senses water on its water sensor, the watch automatically enters the diving mode without any operation to change the mode and all diving functions become ready for use.
After a dive begins, diving time, present depth, maximum depth and water temperature are automatically measured and displayed.
The watch is provided with a log data memory function that can store the data for 4 dives. Moreover, different dive alarm functions are available. One alarm function alerts the diver of excess speed in ascending; if you ascend too rapidly during a dive, the alarm sounds.

Highly reliable water resistant for use at depths of up to 200 meters
The highly reliable water resistance conforms to ISO standards for diving watches.
- ISO diving watch standards are those set forth by the International Organization for standardization. <ISO/6425>

Repairs
All parts of this watch, excluding the band, are to be repaired only at CITIZEN. Please have all inspections and repairs performed at a Citizen Consumer Help Desk or your nearest Customer Support Center.